

米沢市雪対策に関するアンケートについて

1 調査対象

市内に住む 18 歳以上の男女 1,000 名

令和 4 年 12 月 1 日現在の住民基本台帳から年齢階層別に無作為で抽出

2 調査方法 協力のお願いと調査票を郵送

無記名郵送又はやまがた e 申請により回収

3 調査期間

令和 5 年 2 月 1 日～令和 5 年 2 月 24 日

4 回収状況

回答者数 473 人（回収率 47.3%）

＊郵送 370 件、やまがた e 申請 103 件

5 調査結果

別添「米沢市雪対策に関するアンケート集計結果」のとおり

6 考察

問 1 属性

住基による人口分布等に近い回答状況となったことから、概ね市民全体の意見を反映していると考えられる。

傾向として、「2 世代世帯以上」で「一戸建て」に住み、居住年数が長く、主に「自家用車」を利用しているという回答者が多い結果となった。

問 2 家庭における雪処理の状況について

除雪、雪下ろし共に、「自分又は同居の家族」で行っているという状況にある。これは、高齢者のみの世帯でも状況は変わらない。

問 3 冬期間において不安に思ったり問題だと感じたりすることについて

「交差点などの見通しが悪い」、「道路除雪が悪く車が走りにくい」という回答が多く、次いで「押雪の処理が大変」、「地吹雪で視界が悪くなる」という回答も多い。

年齢が上がるほど、不安に思ったり問題だと感じたりする割合が高くなる傾向がみられる。

問 4 除排雪経費の額について

「わからない」という回答が多いが、回答者の道路除排雪への満足度に応じて感じ方が異なる傾向にある。

問 5 道路等の除排雪について

道路、歩道共に「満足していない」という割合が高い。

問 6 除排雪に関する満足度を高めるために優先すべきことについて

「道路のデコボコやわだちの解消」、「道路幅の確保」、「見通しの確保」といった路面等への対策や、「押雪の軽減」を優先的に取り組むべきという声が多い。

問 7 本市が行っている雪に関する制度について

高齢者を対象とする助成事業については認知度が高い傾向を示したが、実際に

利用したことがある割合は少なかった。利用できる方が限られているので利用したくてもできない、手続きが面倒との意見も見受けられた。

一方、町内会や除排雪協力会などを対象とした制度については、一般的な認知度はあまり高くない結果となった。

また、重点を置くべき制度の設問では、「高齢者等除雪援助員派遣事業」と「高齢者等雪下ろし助成事業」を合わせて4割を超え、高齢者等の支援を望む声が他の項目よりも高かった。

問8 地域での除排雪活動について (R5 新規)

「これまでに行ったことはない」が6割を超え、「自分が参加している・家族が参加している」は約2割であった。

「住民同士で除排雪に関する課題を話し合う機会がありますか」については、7割以上が「ない」と答えており、地域の中で支え合って除排雪活動を行うには、「地域のコミュニケーション力を上げるような取組を行うことが必要」との意見が多かった。

問9 高齢者や障がいのある方への除雪支援活動について

除雪ボランティアについて、「あることを知っている」と回答した方は半数を超えているが、実際に「利用したことがある」と答えた方は少数で、「既に参加している」と答えた方もとかなり低い割合となっている。

一方、除雪ボランティアを「必要があれば利用したいと思う」と答えた方は、全体の半数を超える結果であった。また、除雪ボランティアの活動について「機会があれば参加したい」と回答した方は、年齢により大きな差異は見られないが、年齢が高くなるほど「参加することができない」と回答する割合が高くなる傾向がみられ、「参加したいと思わない」と「参加することができない」の合計は7割を超える結果となった。

問10 これから取り組んでいくべきことについて

世代を問わず「高齢者や障がい者などに対する支援体制の強化」が全体の6割近くを占め、最も高い回答率となった。次いで「雪に強い地域づくりへの支援」が5割近くを占め、他の項目よりも高い伸び率を示している。

高齢者等が不安に思っている除雪（押雪を含む）や雪下ろしに関する支援について、現行制度の拡充や、地域コミュニティ内での助け合い、ボランティアの活用など、新たな施策の検討が必要と思われる。

一方、消融雪に関する技術開発や雪をエネルギーとして利用することなどに関する意見も多く、新たな技術や利雪等による冬期間の負担軽減など、前向きな施策も望まれていることが推察された。

7 アンケート結果から見えてくる課題

・道路等の除排雪

冬期間において不安に思ったり問題だと感じたりすることについては、「交差点などの見通しが悪い」、「道路除雪が悪く車が走りにくい」、「押雪の処理が大変」という回答が多く、道路、歩道共に除排雪に「満足していない」

という割合が高かった。また、除排雪に関する満足度を高めるために優先すべきことの設問でも、「道路のデコボコやわだちの解消」、「道路幅の確保」、「見通しの確保」といった路面等への対策や、「押雪の軽減」を優先的に取り組むべきという声が多かった。

- ・ 高齢者や障がい者などへの支援

重点を置くべき本市の制度として、「高齢者等除雪援助員派遣事業」と「高齢者等雪下ろし助成事業」を合わせて4割を超え、高齢者等の支援を望む声が他の項目よりも高かった。また、これから取り組んでいくべきこととして、世代を問わず「高齢者や障がい者などに対する支援体制の強化」が全体の約6割を占め、最も高い回答率となった。

- ・ 雪に強い地域づくり

地域での除排雪活動については、6割以上が「これまでに行ったことはなし」と回答し、除雪ボランティアに「参加したいと思わない」、「参加することができない」も7割を超える結果となった。地域の中で支え合って除排雪活動を行うには、「地域のコミュニケーション力を上げるような取組を行うことが必要」との意見が多く、これから取り組んでいくべきことでも、「雪に強い地域づくりへの支援」が5割近くを占め他の項目よりも高い伸び率を示している。